

平成17年度当初予算発表資料概要

目次

1. 安全で潤いのあるまちづくり

- (1) 曳舟駅周辺地区の整備
 - ① 曳舟駅前地区再開発
 - ② 京成曳舟駅前東地区再開発
- (2) 押上・業平橋駅周辺地区の整備
- (3) 新防災対策の構築
 - ① 生活空間安全確保事業
 - ② 木造住宅耐震改修・簡易補強工事への助成等
- (4) すみだ環境基本条例（仮称）の制定
- (5) 考えよう・明日の地球展（仮称）の開催
- (6) 雨水東京国際会議の開催

2. 明日のすみだを担うひとづくり

- (1) 地域が支える保育サービス
- (2) 南部地区への保育園新設
- (3) 認証保育所の拡充
- (4) 子育て支援ガイドブックの作成
- (5) 学力向上 新すみだプラン
- (6) 学校の校庭芝生化
- (7) 学童疎開体験記録集の発行
- (8) すみだジュニア・オーケストラ（仮称）設立準備
- (9) 墨田区男女共同参画基本条例（仮称）の制定
- (10) 自立のための就労支援
 - ① 生活保護受給者支援の充実
 - ② 障害者への就労支援センターの設置
- (11) 高齢者の認知症（痴呆）ケア・虐待防止事業
- (12) 交通バリアフリー事業の推進
- (13) P F I 手法導入による総合体育館の建設
- (14) 総合的な介護予防事業の充実
 - ① 元気高齢者対策・健康づくりとしての介護予防事業
 - ② 高齢者運動習慣化事業

3. 賑わいと活力のあるまちづくり

- (1) 隅田川水辺空間再整備構想の策定
- (2) 全国に向けた「すみだ観光」のアピール
- (3) 街歩き「北斎ギャラリー」
- (4) すみだ観光戦略プログラム事業（魅力創出事業）
- (5) 墨堤の桜の保全・創出事業
- (6) 「個だわりすみだ発掘隊」支援事業
- (7) 産学官連携事業の推進
- (8) 勝海舟像周辺へのマルチマイクロ発電機設置

4. 区民・地域・行政が協力して進めるまちづくり

- (1) 新たな基本構想・基本計画の策定
- (2) 「すみだやさしいまち宣言」推進事業
- (3) 行政パートナーとしてのNPO等の市民活動支援
- (4) インターネットによる区民サービスの向上
- (5) コンビニエンスストアでの税・国保料の収納委託準備

1. 安全で潤いのあるまちづくり

件名	曳舟駅周辺地区の整備 —①曳舟駅前地区再開発—
予算額	673,000千円
主旨	<p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりの推進を図る。</p> <p>曳舟駅前地区では、交通の利便性を生かした都市型住宅の建設や地域の商業集積の核となる大型商業施設の誘致を計画している。</p>

件名	曳舟駅周辺地区の整備 —②京成曳舟駅前東地区再開発—
予算額	335,865千円
主旨	<p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、京成曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりの推進を図る。</p> <p>京成曳舟駅前東地区では、地域の実情に合わせた再開発を段階的に進めるため、地区を第一・第二・第三の3つに分けて事業を進めている。</p>

件名	押上・業平橋駅周辺地区の整備
予算額	3,011千円
主旨	<p>押上・業平橋駅周辺地区は、平成15年3月に地下鉄11号線の延伸による東武伊勢崎線相互乗り入れが実現し、交通結節点としての機能が強化された。今後は、区の中心部にふさわしい商業・業務・文化・住宅等の複合拠点として整備を促進していくことが求められている。このことから、交通広場や都市基盤施設の整備に合わせたまちづくりの具体化に向け地元地権者と合意形成を図り、土地区画整理事業により基盤整備を推進していく。</p>

件名	<p>新防災対策の構築</p> <p>—①生活空間安全確保事業—</p>
予算額	335,865千円
主旨	<p>近年の大地震における被害実態を見ると、火災よりも家屋倒壊、家具転倒によるものが主であったこともあり、新たな防災対策が求められている。</p> <p>そこで、即効性のある施策として、区民自らが生活空間の安全性を確認し、危険箇所が発見できるチェックシートを作成して全世帯配布する。さらに、家具転倒防止器具の取付け助成も行う。なお、この事業は「木造住宅耐震診断・改修事業」との連携を図りながら実施する。</p>

件名	新防災対策の構築 —②木造住宅耐震改修・簡易補強工事への助成等—
予算額	18,725千円
主旨	<p>近年の大地震における被害実態を見ると、火災よりも家屋倒壊、家具転倒によるものが主であったこともあり、新たな防災対策が求められている。</p> <p>そこで、地震被害の軽減を目的に、木造住宅について「耐震相談」から「耐震改修工事助成」までの一連の耐震化推進事業を行う。</p>

件名	すみだ環境基本条例（仮称）の制定
予算額	609千円
主旨	<p>本条例は、「望ましい環境を未来の子どもたちへ手渡す」という理念のもとに、環境保全・リサイクル・清掃など環境に関わる施策を総合的・計画的に推進するため策定する。</p> <p>条例の特色としては、豊かな水環境・親密なコミュニティ活動・職住接近の中での中小企業活動など、“すみだらしさ”を生かした内容とするとともに、環境学習・自然環境の保全・資源循環の促進など、環境を巡る今日的な課題にも対応できるものとしていく。</p>

件名	考えよう・明日の地球展（仮称）の開催
予算額	3,076千円
主旨	<p>6月の環境月間に企画展を開催し、ヒートアイランド現象や地球温暖化など、悪化しつつある地球環境の原因を探る。また、「土」「水」「大気」「多様な生物」などの自然循環を再生し、地球環境をより良くしていくための方策を学習する機会とし、誰もが実践できる取り組みを区内外に強くPRする。</p>

件名	雨水東京国際会議の開催
予算額	6,000千円
主旨	<p>世界中で洪水や濁水、安全な飲み水の問題が深刻化する中、国内においても多発する水害や震災により、雨水の貯留や地中への浸透が注目を集めている。世界的に関心が高まっているこの機会を捉え、平成17年8月に本区で「雨水東京国際会議」を開催する。本会議は、世界の産官学民の雨水ネットワークを結集し、雨水の有効利用及び地域水循環の保全・再生を政策的・組織的に展望していくことを目的とする。平成16年6月に実行委員会組織を立ち上げ、会議開催に向け準備を進めている。</p>

2. 明日のすみだを担うひとづくり

件名	地域が支える保育サービス
予算額	25,500千円
主旨	<p>核家族化や地域のつながりの希薄化など子育てをめぐる環境の変化が著しい中で、育児への負担感や孤立感・不安感などを抱える保護者が増えつつある。このため、保育サービスだけでなく、すべての子育て家庭に対する地域社会の支援が急務となっている。そこで平成17年度は、商店街の空き店舗等の遊休施設を地域における子育て支援の場として活用し、地域住民も参加する中で、子育て中の保護者の仲間づくりや情報交換ができる「子育てひろば」を設置する。併せて、柔軟な保育サービス（一時保育、短時間・短日数の保育）も提供するなど、地域が支える保育サービスを展開していく。</p>

件名	南部地区への保育園新設
予算額	46,000千円
主旨	<p>次代を担う子どもを安心して産み育て、少子化の進展に歯止めをかけるために、子どもが心身ともに健やかに育つ環境を整備することが強く求められている。</p> <p>しかし、仕事と子育てとを両立させるための保育サービスの需要が高まる一方、平成16年4月1日現在、墨田区では93名が保育園の入所待機児童となっている。その約8割が区南部地区在住であることから、保育需要への対応と、多様な保育サービスの実施拡大を図るため、区南部地区に保育園を1園新設する（平成19年度開園予定）。</p>

件名	認証保育所の拡充
予算額	42,500千円
主旨	<p>仕事と子育てとを両立させながら、子どもの健やかな育ちを支援するため、区では認可保育園の充実に努めている。一方、保護者の就労の多様化により、長時間保育や駅前など送り迎えに便利な場所での保育といった都市型の保育サービス需要が高まっている。こうした声にこたえるため、東京都では独自の基準による認証保育所制度を平成13年度にスタートした。</p> <p>区内ではすでに7園（定員合計193名）の認証保育所が開設されており、民間企業など多彩な事業者がサービスを提供している。平成17年度は、さらなる充実を図るため認証保育所2園の開設を支援する。</p>

件名	子育て支援ガイドブックの作成
予算額	5,527千円
主旨	<p>明日のすみを担う子どもたちが健やかに生まれ、成長していくための環境整備を図ることを目的として、墨田区では、平成17年度から平成26年度までの10年間に取り組むべき施策の方向性等を明らかにした「墨田区次世代育成支援行動計画」を平成16年度中に策定し、平成17年度以降は区民、関係機関、区が協働で計画の推進を図ることとしている。その一環として、平成17年度は、子育て中の保護者に対して育児、家庭教育、虐待防止など、子育てをするうえで参考となる情報等をまとめた啓発冊子「子育て支援ガイドブック」を作成する。</p> <p>このほか、「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」を設置するとともに、次世代育成支援に関するシンポジウムを開催するなど、子育て支援の充実を図る。</p>

<p>件 名</p>	<p style="text-align: center;">学力向上 新すみだプラン</p> <p style="text-align: center;">－「すみだ教育研究所」の新設、開発的学力向上プロジェクト、ＡＴ等派遣事業など－</p>
<p>予 算 額</p>	<p style="text-align: center;">３８，６１９千円</p>
<p>主 旨</p> <p>２１世紀に活躍する子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、自ら学び、主体的に問題を解決するための「確かな学力」を育てることは、区の重要課題の一つである。そこで、墨田区では平成１６年度から「開発的学力向上プロジェクト」を立ち上げ、区で統一した「学習到達度調査」を実施するとともに、その結果に基づいて、全校で「授業改善プラン」を作成し、授業改善に努めてきた。</p> <p>平成１７年度は、墨田区立学校の全ての子どもたちの更なる学力向上を図るため、「すみだ教育研究所」を新設し、「開発的学力向上プロジェクト」を中心とした総合的な学力向上施策の立案、「アシスタントティーチャー」等の派遣や「学習ボランティア」の組織化、保護者・家庭向けの学習講座や学習相談の実施などを行うとともに、「若手指導員」を活用して、子どもたちの学びへの総合的なサポートを行う。</p>	

<p>件 名</p>	<p style="text-align: center;">学校の校庭芝生化</p>
<p>予 算 額</p>	<p style="text-align: center;">３２，０００千円</p>
<p>主 旨</p> <p>都市部におけるヒートアイランド現象など環境問題が深刻化しており、教育施設においても、環境にやさしい施設づくりを進めていく必要がある。</p> <p>現在、区立小・中学校の校庭は、砂埃や雨天対策のため、ほとんどをアスファルト化している。この状況は、運動中の転倒などのおそれから、子どもたちの屋外活動を妨げているとも考えられる。そこで、児童生徒が屋外で活発な活動を行うことによる心身に及ぼす効果や自然・環境等の教育的効果などが十分に期待できることから、学校の校庭の芝生化をモデル実施する。</p>	

件名	学童疎開体験記録集の発行
予算額	25,500千円
主旨	<p>墨田区は、昭和20年3月10日の東京大空襲により壊滅的な被害を受けた歴史がある。このため、東京大空襲をはじめとする戦争体験等の記録・保存に努めるとともに、これを若い世代に伝えていくことを施策の方向のひとつとしている。そこで、平成17年が終戦後60年という節目の年にあたることから、「学童疎開」の体験を若い世代に語り継ぎ、広く戦争の悲惨さと平和の尊さを認識してもらうため「学童疎開体験記録集」を編集・発行する。</p>

件名	すみだジュニア・オーケストラ（仮称）設立準備
予算額	5,000千円
主旨	<p>墨田区は、文化の向上と地域の活性化を図ることを目的として、昭和63年3月に墨田区音楽都市構想を策定し、「音楽都市づくり」へ向けた事業をスタートさせた。平成9年10月にオープンしたすみだトリフォニーホールは、区内への情報発信はもとより、東京東部地域の芸術文化の創造・発信拠点となっている。このすみだトリフォニーホールが、平成19年に10周年を迎えることから、これに合わせて、将来の音楽家（演奏家）を育成するため、すみだジュニア・オーケストラ（仮称）を設立し、トリフォニーホールを核とした「音楽都市づくり」をより一層推進する。</p>

件名	墨田区男女共同参画基本条例（仮称）の制定
予算額	666千円
主旨	<p>墨田区では、少子高齢化の進展や、依然として地域社会に残る性別役割分担意識、男女の差別的な取り扱いや女性に対する暴力などさまざまな課題に対応するため、平成16年3月に「墨田区男女共同参画推進プラン」を策定し、着実に施策を推進している。しかし、男女共同参画社会の実現に向けては、行政による施策の取り組みだけではなく区民等と連携しながら協働で推進する必要がある。そこで、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成17年度に条例を制定する。</p> <p>条例の制定にあたっては、墨田区の特徴として、中小零細企業や自営業が多く、家族従業の女性が経営に重要な役割を果たしながら、家庭の仕事も引き受けているという現状を考慮しながら制定する。</p>

件名	<p>自立のための就労支援</p> <p>—①生活保護受給者支援の充実—</p>
予算額	25,962千円
主旨	<p>生活保護制度は、人が健やかに生活するうえでの最後のセーフティーネットとして最低限度の生活を保障するとともに、自立助長を図ることを目的としている。このため、生活が安定した後には、稼働能力のある被保護者について就労自立を促すことが求められている。</p> <p>そこで、平成16年度からケースワーカーが被保護者に対して就労指導する際に専門的な立場からの助言・協力を行う「就労支援相談員」を1名配置し、被保護者の自立支援に取り組んできたところである。この結果、着実に成果をあげ、保護件数・保護費の削減にも貢献している。</p> <p>こうした実績を踏まえ、平成17年度は、就労支援相談員をさらに1名増員するとともに、新規に技能習得に要する経費の一部を支給する就労支援等を行い、生活保護を受けている方の自立を促進する。</p>

件名	<p style="text-align: center;">交通バリアフリー事業の推進 — JR錦糸町駅・東武曳舟駅・曳舟川通りのバリアフリー化—</p>
予算額	<p style="text-align: center;">133,011千円 31,500千円</p>
主旨	<p>平成12年11月に施行された「交通バリアフリー法」の主旨に基づき、誰もが公共交通機関を使って移動のしやすい“バリアフリーのまちづくり”を推進するため、墨田区では平成16年6月に「墨田区交通バリアフリー基本構想」を策定した。この基本構想の中で、墨田区北部の拠点として現在再開発の進む東武曳舟駅及び京成曳舟駅周辺地区を重点整備地区として指定。これに基づき、平成17年度は東武曳舟駅のエレベーター設置（3基）に対する補助を行うほか、JR錦糸町駅の下りエスカレーター設置（2基）についても補助を行う。</p> <p>また、区北部地域を縦断する曳舟川通りについては、歩道の段差を解消するなどして、高齢者、障害者、その他歩行者及び自転車の円滑な運行を確保する。</p>

件名	<p style="text-align: center;">高齢者の認知症（痴呆）ケア・虐待防止事業</p>
予算額	<p style="text-align: center;">1,197千円</p>
主旨	<p>高齢化の伸展に伴い、認知症高齢者も増加してきている。そこで、平成17年度は、認知症高齢者の生活の質の向上や家庭の介護負担の軽減を図るため、認知症の正しい理解とケアの方法等を普及・啓発する。</p> <p>また、近年、高齢者の虐待問題が次第に顕在化し、社会的な問題となりつつある中で、墨田区においても、サービス事業者や家族等から「虐待」あるいは「虐待と疑われる」といったケースの相談や対応依頼が寄せられている。これらに的確に対応する体制の整備を図るとともに、虐待に関する正しい知識の普及や意識啓発を図る。</p>

件名	<p style="text-align: center;">自立のための就労支援</p> <p style="text-align: center;">—②障害者への就労支援センターの設置—</p>
予算額	<p style="text-align: center;">6,566千円</p>
<p>主旨</p> <p>障害者が地域で自立した生活を送るためには、障害者の一般就労の機会の拡大を図るとともに、安心して働き続けられるよう“就労面”と“生活面”の支援が必要である。そこで、これらの支援を一体的に提供する「障害者就労支援センター」を既存の公共福祉施設内に新設し、障害者の一般就労を促進して、真の自立と社会参加を目指す。</p>	

件名	<p style="text-align: center;">高齢者の認知症（痴呆）ケア・虐待防止事業</p>
予算額	<p style="text-align: center;">1,197千円</p>
<p>主旨</p> <p>高齢化の伸展に伴い、認知症高齢者も増加してきている。そこで、平成17年度は、認知症高齢者の生活の質の向上や家庭の介護負担の軽減を図るため、認知症の正しい理解とケアの方法等を普及・啓発する。</p> <p>また、近年、高齢者の虐待問題が次第に顕在化し、社会的な問題となりつつある中で、墨田区においても、サービス事業者や家族等から「虐待」あるいは「虐待と疑われる」といったケースの相談や対応依頼が寄せられている。これらに的確に対応する体制の整備を図るとともに、虐待に関する正しい知識の普及や意識啓発を図る。</p>	

件名	交通バリアフリー事業の推進 －ＪＲ錦糸町駅・東武曳舟駅・曳舟川通りのバリアフリー化－
予算額	133,011千円 31,500千円
主旨	<p>平成12年11月に施行された「交通バリアフリー法」の主旨に基づき、誰もが公共交通機関を使って移動のしやすい“バリアフリーのまちづくり”を推進するため、墨田区では平成16年6月に「墨田区交通バリアフリー基本構想」を策定した。この基本構想の中で、墨田区北部の拠点として現在再開発の進む東武曳舟駅及び京成曳舟駅周辺地区を重点整備地区として指定。これに基づき、平成17年度は東武曳舟駅のエレベーター設置（3基）に対する補助を行うほか、ＪＲ錦糸町駅の下りエスカレーター設置（2基）についても補助を行う。</p> <p>また、区北部地域を縦断する曳舟川通りについては、歩道の段差を解消するなどして、高齢者、障害者、その他歩行者及び自転車の円滑な運行を確保する。</p>

件名	ＰＦＩ手法導入による総合体育館の建設
予算額	18,070千円
主旨	<p>生涯スポーツの中核的施設とも言うべき墨田区体育館は、昭和42年に開館してからすでに37年が経過し、施設の老朽化等により、近年の増大化・多様化するスポーツ需要に十分にこたえられない状況にある。このため、現在の体育館を総合体育館として改築することは、スポーツを愛好する多くの区民にとっての願いであり、区としても重要課題の一つとなっている。</p> <p>このような状況に対応するため、財政負担の低減や平準化等の効果が期待できるＰＦＩ方式の導入によって、総合体育館建設の着実な推進を図るとともに、民間のノウハウを活用した柔軟で効率的な施設運営を目指す。</p>

件名	<p style="text-align: center;">総合的な介護予防事業の充実</p> <p style="text-align: center;">—①元気高齢者対策・健康づくり（※）としての介護予防事業—</p>
予算額	<p style="text-align: center;">5,683千円 （※うち 1,482千円）</p>
主旨	<p>現在、墨田区の65歳以上の高齢者人口は約45,000人で、高齢化率は20%を超えている。そのうち、介護が必要な高齢者はおよそ15%となっている（要認定者約6,600人）。こうした要介護高齢者の増加とともに、介護給付費等の社会負担も拡大している。さらに、介護保険サービス受給者は年々増加し、特に「要支援」「要介護1」の比較的軽度の高齢者が、平成12年度の制度開始時と比較するとほぼ倍増となっており、全体でも5割を占めるほどとなっている。</p> <p>そこで、高齢者ができる限り要介護状態に陥ることなく、住み慣れた地域の中で健康でいきいきとした生活が送れるように、平成17年度は健康づくりや介護予防の各事業の充実を図る。これにより区内の高齢者の「健康寿命」を伸ばしながら、生きがいを高め、社会への参画を促進する。</p>

件名	<p style="text-align: center;">総合的な介護予防事業の充実</p> <p style="text-align: center;">—②高齢者運動習慣化事業—</p>
予算額	<p style="text-align: center;">10,094千円</p>
主旨	<p>高齢者がいつまでも健康で、いきいきと自分らしく暮らせるまちづくりを目指し、運動を取り入れた日常生活の習慣化を進めてもらうため、モデル事業として平成17年度に高齢者向けの運動遊具を区立公園1園に設置するとともに、この遊具を活用した運動教室を定期的で開催する。併せて、器具を使用せず家庭で気軽にできる体操や運動の普及を図る。</p> <p>これらの取り組みにより家庭・地域での健康づくりを促進し、高齢者が要介護状態にならないように環境を整備するとともに、「閉じこもり防止」や「仲間づくり」にもつなげていく。</p>

3. 賑わいと活力のあるまちづくり

件名	隅田川水辺空間再整備構想の策定
予算額	5,000千円
主旨	<p>墨田区では平成16年度に、観光をテーマとした地域再生計画「江戸と現代と未来を結ぶ空間「すみだ」の構築」をとりまとめ、また「墨田区観光振興プラン」も策定した。平成17年度は、いよいよ、墨田区観光元年を迎える。</p> <p>そこで多くの人を区内に呼び込むために、墨田区の代表的な観光資源である隅田川水辺空間の魅力をより一層向上させる「隅田川水辺空間再整備構想」を策定する。この構想に基づくソフト・ハード整備を行うことにより、墨田区の新たな魅力ある隅田川水辺空間の再生に取り組んでいく。</p>

件名	全国に向けた「すみだ観光」のアピール ーすみだ観光ムックの刊行ー
予算額	9,500千円
主旨	<p>墨田区では、平成16年度に「墨田区観光振興プラン」を策定した。これは、新たに発見する街の魅力と区内各所にある既存の観光資源を連携させ、一層の「来街者の増加」の実現を図るとともに、賑わいの創出を「地域経済の活性化」へ結び付けていくことを目的とするものである。</p> <p>このプランのテーマは「都市型観光」である。これは「街」そのものを観光資源ととらえ、「街を歩くことの楽しさ」を魅力の中心に据えて、街と一体となった「歩いて楽しい」観光施策を展開していこうというものである。</p> <p>そのためには、まず「都市型観光地」としてのイメージづくりを効果的に行う必要があることから、「街歩き」に便利なすみだ版観光情報誌「観光ムック」を刊行する。関東はもとより全国の書店やコンビニに配本し、「すみだ観光」を強力にアピールする。</p> <p>※ムックとは「るるぶ」「まっぷる」のような観光ガイド。Mook：雑誌Magazineと本Bookの機能を持つ媒体</p>

件名	街歩き「北斎ギャラリー」
予算額	3,000千円
主旨	<p>墨田区では、都市の魅力を戦略的にアピールし、賑わいの創出と地域の活性化を図るため、平成16年度に「墨田区観光振興プラン」を策定した。この中で、「街を歩くことの楽しさ」を「都市型観光」の中心に置き、様々な施策を実施していくこととしている。この一環として、葛飾北斎ゆかりの「北斎通り活性化事業」を展開し、北斎作品のイメージを想起するようなまちづくりを、区民の協力を得ながら推進する。</p>

件名	すみだ観光戦略プログラム事業（魅力創出事業）
予算額	19,338千円
主旨	<p>「新タワー誘致活動」という、区の観光振興に大きな効果をもたらすプロジェクトの動向を見据えながら、新たな観光事業を進めるにあたっては、これまでの施策の見直しや来街者の流れの変化等を考慮しながら、弾力的に対応する必要がある。このため、平成16年度に策定した「観光振興プラン」を着実に実施していくための事業実施体制の強化が重要な課題となる。そこで、平成17年度は、民間活力の導入を主眼として、新たに観光専門員と観光プロデューサーを設置して、観光施策を戦略的に進めていくための体制を整備する。</p>

件名	墨堤の桜の保全・創出事業
予算額	95,396千円
主旨	<p>隅田公園の桜は、江戸幕府八代将軍吉宗が隅田川沿いに植えたのが始まりと言われており、多くの人々が訪れる「花見の名所」となっている。</p> <p>この墨堤の桜も最後の植栽から35年が経過し、桜の枝は互いに日当りを求めて重なり合い、表土が流失して土壌が固くなる等、生育環境が悪化して一部の桜に衰弱が見られるようになった。</p> <p>そこで、平成15年度には学識経験者、区民、地元公園愛護会、行政委員による検討委員会を組織し、「隅田川と一体となった桜並木の景観を活かした公園整備」について検討した。この結果、平成16年度から4ヵ年計画で桜の「保全事業」を行うこととし、さらに、新たな“桜の園”の「創出事業」を平成17年度から3ヵ年計画で開始することとした。</p>

件名	「個だわりすみだ発掘隊」支援事業
予算額	2,250千円
主旨	<p>消費の低迷が続き区内商店の多くが厳しい対応を迫られている。その一方で、消費者のこだわりや嗜好に応えられる集客力をもつ店も多数存在する。また、地元の人だけが知る隠れた名店も少なくない。</p> <p>そこで、消費者などの声をもとに発見した「こだわりの店」「隠れた名店」のPR活動を展開し、多くの方にすみだの店へ足を運んでもらうきっかけづくりを行う。また、単に目当ての店を利用するだけでなく、街の魅力も味わってもらい地域全体の活性化につなげていく。</p>

件名	産学官連携事業の推進
予算額	37,242千円
主旨	<p>平成14年12月、墨田区は早稲田大学との間で、幅広い分野での連携を目的とした全国初の「包括的事業連携協定」を締結した。3年目を迎える平成17年度は、同協定の趣旨実現のため「産業振興」「まちづくり」「ひとづくり」など各方面で展開した平成16年度の成果を踏まえ、より一層の事業内容の拡充と新規事業への取り組みを行うことにより連携事業の着実な進捗を図る。</p>

件名	勝海舟像周辺へのマルチマイクロ発電機設置
予算額	6,883千円
主旨	<p>すみだの「ものづくり」の技術を全国に発信するため、産学官連携による新製品開発プロジェクトがマルチマイクロ発電機（MMD＝風・光・熱力による発電機）を開発中である（平成17年3月に試作品が完成予定）。その原理を応用することで、いくつかのタイプのエコ発電機を区内で開発・製作することが可能となった。このような、区内産業の高度な技術を活かし、区のシンボリックな観光資源のライトアップ等に活用することで、観光資源の環境整備を図ると同時に、墨田区の産業の活性化を目指す。</p>

4. 区民・地域・行政が協力して進めるまちづくり

件名	新たな基本構想・基本計画の策定
予算額	31,500千円
主旨	<p>21世紀を迎え、墨田区を取り巻く環境が著しく変化している今、20年後の2025年を目標年次とする新たな基本構想を、多くの区民参画により策定する。</p> <p>また、新たな基本構想のもと、成果重視の行政運営を行うために、行政評価（施策評価）を体系的に組み込んだ基本計画を策定する。</p>

件名	「すみだやさしいまち宣言」推進事業
予算額	20,101千円
主旨	<p>墨田区では、「人」と「地域」と「環境」にやさしいまちづくりを目指し、平成12年7月に「すみだやさしいまち宣言」を行った。以来、区民との協働により、宣言に基づく様々な実践活動に取り組み、それぞれの分野において一定の成果をあげている。また、平成16年度からは、すみだのまちの担い手となる「人づくり」を一層推進するため、毎月25日を「すみだ 家庭の日」と定め、家族や地域でのふれあいのきっかけづくりとなる事業を展開しながら「やさしさ」や「おもいやり」を育むまちづくりを進めている。</p> <p>平成17年度は、宣言運動をさらに進展させるため、「やさしいまち」の土台となる「地域力」の強化・活用を図るとともに「地域における人づくり」のための施策を展開し、「区民運動」としての定着を目指す。</p>

件名	行政パートナーとしてのNPO等の市民活動支援
予算額	7,868千円
主旨	<p>区内では、現在31団体がNPO法人の認証を受けている。NPO法人の認証手続きは都道府県の事務であるため、現状ではNPO法人の設立手続等に関する相談は、東京都または市民活動センターの窓口・連絡先等を紹介することで対応している。</p> <p>一方、災害時等のボランティアやNPOの活動を通してNPO法人への関心が次第に高まってきている。そこで当区においてもこうした機運の高まりを契機に、市民活動との協働を進めるため積極的な支援策を実施していく。</p>

件名	インターネットによる区民サービスの向上
予算額	74,360千円
主旨	<p>現在、区内の体育施設やコミュニティ施設などの公共施設の使用申請や申し込みの取消などを、最寄りの区施設で行うことができるサービスを実施している。平成17年度からは、このサービスをさらに拡充し、自宅やオフィスなど、どこからでもパソコンや携帯電話などのインターネットを通して空き状況を確認したり、仮予約することのできるシステムを導入し、利用者の拡大と利便性の向上を図る。</p> <p>また、図書館業務では、インターネットによる資料予約や時間外でも自分の貸出し状況等を確認できる「自動応答システム」等の新機能を付加して、利用者サービスの向上を図る。</p>

件名	コンビニエンスストアでの税・国保料の収納委託準備
予算額	25,282千円 (国保分 9,322千円) (税務分15,960千円)
主旨	<p>平成18年度から、コンビニエンスストアでの国民健康保険料、特別区民税・都民税、軽自動車税の収納を行うことにより、納付機会を拡大し、区民サービスの向上を図る。平成17年度は収納システムの開発・整備、機器類の設置、収納代行業者への準備委託等を行う。</p>